

厳選 安倍バブル銘柄20で一儲け ●今年こそ絶対に「離婚する!」宣言

中国が戦争準備を開始! 尖閣沖開戦のXデーを読む 結論 原発は廃炉が経済的に正しかった!

青木雄二プロダクション 新 ナニワ金融虫道

# SPA!

Business, Culture and Entertainment Weekly.  
129週刊SPA! 2013年3月22日発行 (隔週火曜日発行) 通巻3263号  
ETISPA! http://nikkan-spa.jp/

# 厳選 安倍バブル銘柄20で一儲け

日経平均の目標は1万5000円!  
アベノミクスに乗って給料の目減り分を取り戻せ!

SKF48 謎解きParts

箱根駅伝優勝 日体大「どん底から頂点への奇跡」  
最強の金持ち民間人  
鳩山ルーピー外交が止まらない!



30歳からのラブ入門  
絶対来る! 2013年「ツチブレイク」ベスト5

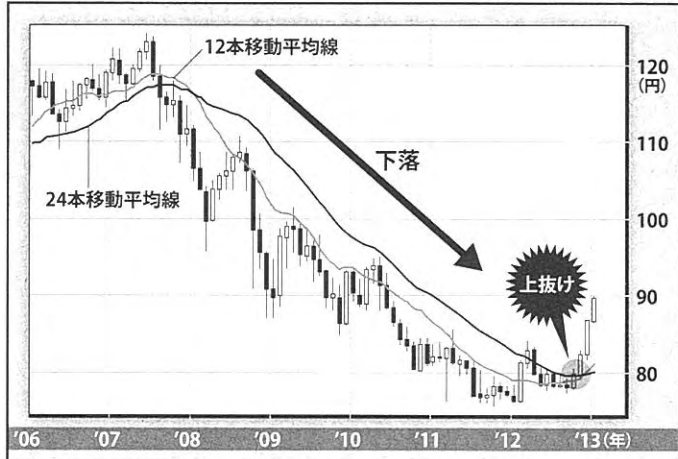
禁断の戦略的離婚マニュアル

嫁と別れて新たな人生を築きたいのなら、もはや躊躇する必要なし!

今年こそ絶対に「離婚する!」宣言

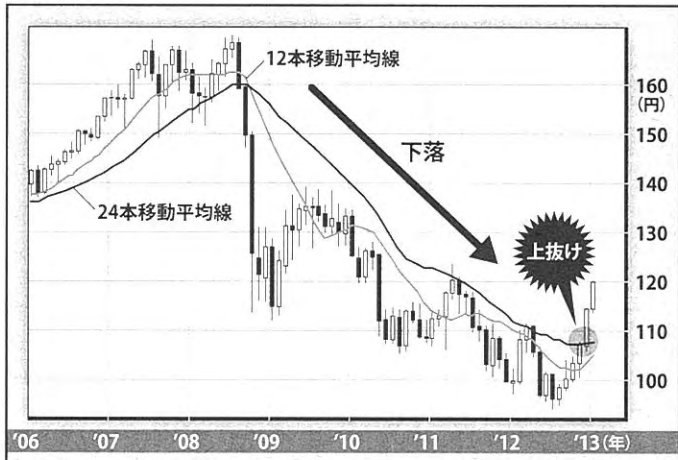
みづらじゅん & リリーフランキーの  
グロビアン魂  
佐々木心音  
相武紗季

ドル/円は長期の下落から反転し上昇!



07年の半ばから約5年間も下落が続いたドル/円は昨年末にトレンド転換。チャートはぐんぐん上昇を始め、12本移動平均線、24本移動平均線をあっさり上抜き90円にタッチした

ユーロ/円も24本移動平均線を上抜け!



08年後半から失速し大きく下落したユーロ/円。その後反発するも、24本移動平均線をなかなか上抜けずに跳ね返されていた。三度目の正直で昨年、24本移動平均線を突破し、一気に120円台に

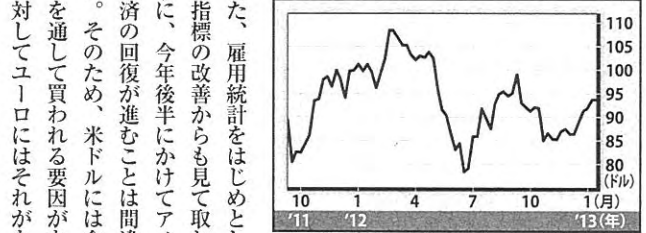
豪ドル/円はレンジ相場を上抜け急騰!



ドル/円やユーロ/円と違い、08年後半に急落後、この3年間レンジ相場を形成していたのが豪ドル/円。そのレンジを昨年末に抜け出し、力強い上昇トレンドに。95円にタッチし100円を目指す

「月足チャートで見ると、ドル/円は07年から続いている長期の下落トレンドから脱し、上昇トレンドに入り直した。同じくユーロ/円も、08年からの長期の下落トレンドを脱し、上昇トレンド入りしています。ドル/円もユーロ/円も、長期で見れば緩やかな円安トレンド入りしたことは間違いない。そんななかユーロに不安があるとすれば、9月に行われるドイツ総選挙など加盟国の政局不安。もちろん今のところ落ち着いているとはいえ、ギリシャやスペインなどで突発的なリスクが発生する可能性は今後も考えられる。」

WTI原油先物の週足チャート



昨年半ばに1バレル80ドル割れするも再び上昇を始めた原油価格。とはいえ、その上昇にはそれほど勢いがありません。ユーロが今年、アメリカのように回復するとは考えづらい。よくて横ばいでしょう。要するに積極的なドル買いの材料は見つからない。ユーロ買いの材料は見当たらないのです。」

「豪ドル/円は、ドル/円やユーロ/円と異なり、月足で見ると10年以降、長期のレンジ相場を形成していましたが、昨年末そのレンジを上抜け08年以降の100円を

目指す展開になってきました。中国の景気が底入れしたこともあり、豪ドルはさらに一段高が見込まれる。しかし、豪ドルが強い資源国通貨が買われていると判断するのは早計。例えばWTIの原油先物価格の週足チャートを見ると、原油価格は思ったほど上昇していません。Q&E3では、FRBは不動産担保証券しか買っていないため、商品市況にお金が流れていません。豪ドルの上昇は資源国通貨だから買われているのではなく、景気に敏感な通貨として、ユーロの底入れやアメリカの景気回復などに反応しているのを見なくては

では、為替を読むうえで今後のポイントは何なのか? 「今、アメリカの長期債の金利は1.9%ぐらいで、日本は0.8%ぐらい。景気回復が本格化し金融緩和が終了するアメリカと、今後緩和が進む日本、日米の金利差が開くことで円キャリートレードに拍車がかかり、円売りドル買いが進むはず。その点から考えても、前述の日銀人事に加えて、QE3がいつ終わるのか、今年最大のポイントではないでしょうか」

今は勢いがある安倍政権の景気対策が、年後半にかけて失速しないか不安はあるが、円高よりも円安要因が多い今年1年は、円安・株高は続くのではないだろうか。

マネー得本部



為替反転



円安・株高の賞味期限はいつまで続く? 米経済回復&ユーロ底入れで円高は止まった!? 2013年[為替]大予想

デフレ経済を克服するためにインフレターゲットを設定し、これが達成されるまで金融緩和措置を講ずる「アベノミクス」。この大胆な経済政策を錦の御旗に掲げ、米経済回復やユーロ底入れを追い風にしながら急速に進む円安・株高の勢いは、いったいいつまで続くのか?

円安が進む為替相場にどうして目先のリスクは何か? 21日(22日)に開かれた日銀の金融政策決定会合で、マーケットの期待どおりに追加緩和が行われたかどうか? とは、アナリストの小川佳紀氏。マーケットの期待どおりにインフレターゲットを2%にすることを、それに向けて無期限で金融緩和が行われるかどうか? 「これをクリアできた場合、4月8日に任期満了を迎える白川方明・日銀総裁の後任人事が次のリスクに。現状、金融緩和に理解のあ

る人が次の総裁になると見られていますが、衆参両院の同意が必要のため、与党が過半数を押さえる衆議院はともかく、参議院を通すには野党の協力が必要。仮にそこで協力を得られなかった場合、日銀総裁のポストが空白になるというリスクが出てきます」

最近の円安は、総裁人事も見越した日銀の金融緩和を織り込んで見ると間違いはないだろう。マーケットは、金融緩和に理解のある人が次の日銀総裁に就任し、新総裁がとんとん金融緩和を推し進め、それにより円安が進み企業業績が回復する、ぐらいのところまで織り込んでいます。それなのに、例えば金融緩和はするけど無期限ではないなど、マーケットが織り込んでいることと内容に食い離れが大きいと、リスクとして受け



「衆議院選挙時に、自民党の石破茂幹事長が為替は85〜90円ぐらいが望ましいという発言をしたことから考えても、政府としては90円あたりが落ち着きどころと見ているはず。マーケットもそう認識している。ヘッジファンドの仕掛けでもない限り、ドル/円は90円ぐらいが、政府にとっても、マーケットにとっても、日銀にとっても居心地のいい水準」



小川佳紀氏  
フィスコ株式リサーチ部アナリスト。中堅証券会社を経て現職。中小型株や新興市場株の分析から、為替相場の動向まで幅広く担当する